

# 小山東助年譜・著作目録

松田 義男 編  
改訂 2019年4月22日  
2004年9月24日

## 目次

- I 小山東助年譜
- II 小山東助著作目録
  - 1. 単行書
  - 2. 単行書所収
  - 3. 新聞雑誌掲載
  - 4. 帝国議会演説
- III 注記

## 凡例

- ・本年譜・著作目録の作成にあたっては、「鼎浦<sup>おやま</sup>小山東助氏年譜・著作総目録」(『鼎浦全集 第3巻』鼎浦会事務所、1925年)を参照した。同目録では、著作を年次別・掲載紙誌別に掲げているが、掲載紙誌の号数・刊行月日や掲載時の署名は記されていないし、掲載紙誌未詳のものや、掲載年次または掲載紙誌に誤記がある。
- ・本著作目録では、1.単行書、2.単行書所収、3.新聞・雑誌掲載著作に区分し、それぞれ年次順に配列し、参考までに、4.帝国議会質問演説を配列した。
- ・新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- ・連載評論で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- ・雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- ・新聞・雑誌における常設欄・特集・アンケートなどは[ ]内に「」で示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とした。
- ・収録書については、下記の略号を使用した。  
『鼎浦全集』第1巻、第2巻、第3巻は『全集』①、②、③、西田耕三編『鼎浦小山東助の思想と生涯』(鼎浦小山東助顕彰会、1979年)は『思想と生涯』、同『小山東助政治論集』(NSK 地方出版、1984年)は『政治論集』と略記した。
- ・掲載未確認の著作については\*を付した。
- ・なお、本著作目録では『鼎浦小山東助の思想と生涯』収録の書簡60通は採録していない。
- ・鼎浦(鼎浦生、鼎浦学人、鼎浦漁史、鼎浦歌客、鼎浦吟客などを含む)を除くペンネームまたは無署名については【 】に注記した。無署名文については、前記「鼎浦小山東助氏年譜・著作総目録」にしたがった。ペンネームとしては、上記のほか、春村(『文庫』)、春村、春村樵夫、春村樵侶、天香庵、流星、流星庵、流星子(『尚志会雑誌』)、幼天鶴、幼鶴子、里の子、白芙蓉、汀鷗生、蛭の子(『新人』)、幼天鶴、安波三郎(『帝国文学』)、愛涛、愛涛漁郎、汀鷗、黒頭尊者、文壇子、白芙蓉(『毎日新聞』)、局外生、静観盧主人(『東京日日新聞』)、玉芙蓉閣主人(『大学評論』)、T、O、生などがある。
- ・その他、適宜、注記事項を[ ]に示した。

本年譜・著作目録の作成に際しては、国立国会図書館、日本近代文学館、宮城県図書館、早稲田大学付属図書館、東京大学総合図書館・同法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫、同志社大学今出川図書館・同人文科学研究所所蔵の資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

# I 小山東助(1879—1919)年譜

## 1879(明治 12)年

11 月 24 日、宮城県本吉郡気仙沼町(現気仙沼市)に生れる。

## 1885(明治 18)年

4 月、気仙沼尋常高等小学校に入学。

## 1893(明治 26)年

4 月、宮城県立尋常中学校入学。「予幼にして詩歌を恋ひ、長じて漸く詩人の面影を慕ひしが、笈を五城の中学に負ふや、好んで『文学界』を読み、藤村の歌を誦するごとに一種の愛着を感じたりき、比頃より彼の歌は予が初恋の情人とはなりぬ」(「現今の新体詩家(一) 島崎藤村」『帝国文学』8・5)。

## 1894(明治 27)年

この頃、宮城県立尋常中学校で、1 年上級の吉野作造が幹事をしていた回覧誌『桜』同人に参加する[吉野作造「小山君の思ひ出」『新人』20・10]。

## 1896(明治 29)年

10 月 15 日、本名小山東助で投稿した新体詩「禪の扉」が、投稿誌『文庫』に掲載される。

## 1897(明治 30)年

2 月 11 日、春村署名で投稿した新体詩「月夜鴉」が『文庫』に掲載される。以後、春村署名の新体詩が頻繁に掲載される(～明治 31 年 3 月 20 日)。

9 月、仙台第二高等学校第一部入学(二年上級に内ヶ崎作三郎・島地雷夢・栗原基、一年上級に深田康算、同級に吉野作造・斉藤信策・祥雲確悟・小松武治・三浦吉兵衛)。

12 月 25 日、『尚志会雑誌』に、新体詩「秋野賦」を発表。以後、同誌に春村、春村樵夫、春村樵侶、流星、流星庵、流星子、天香庵の署名で新体詩・短歌などを発表。

この年(?)、バプテスト教会の宣教師ズベルが主宰するバイブル・クラスに参加する[栗原基『ズベル先生伝』]。

## 1898(明治 31)年

7 月ごろ、島地雷夢、内ヶ崎作三郎、吉野作造の浸礼教会での受洗(7 月 3 日)について、校友会の席上で批判的に言及する(「薄倅の秀才島地雷夢」『六合雑誌』419)。内ヶ崎作三郎の推薦で、吉野作造とともに校友会雑誌『尚志会雑誌』の委員になる[吉野作造「小山君の思ひ出」『新人』20・10]。

12 月 15 日、懸賞文募集で新体詩「秋の述懐」が入賞し、『尚志会雑誌』32 号に掲載される。

## 1900(明治 33)年

- 7 月、仙台第二高等学校卒業。
- 9 月、東京帝国大学文科哲学科に入学。内ヶ崎作三郎・深田康算・栗原基が入寮していた本郷の中央学生基督教青年会館に入寮する。
- 11 月、帝国文学会に入会(斉藤信策・祥雲確悟も同月入会。『帝国文学』6-12 の「新入会者」では小山西京助と誤植)。

## 1901(明治 34)年

- 7 月 1 日、『新人』に幼天鵠署名で新体詩を発表、以後、幼天鵠、幼鶴子、里の子、白芙蓉、汀鷗生、蜚の子などの署名で執筆。
- 12 月 31 日、祥雲確悟・三浦吉兵衛とともに、足尾銅山渡良瀬沿岸被災地を視察[古川<sup>正</sup>確悟「高等学校時代の小山君と私」『六合雑誌』]。

## 1902(明治 35)年

- 1 月、足尾鉍毒被害地状況報告学生街頭演説会に参加。
- 3 月 20 日、本郷教会の海老名弾正のもとで受洗する[太田雅夫「本郷教会の人々」『「新人」「新女界」の研究』(人文書院、1999 年)211 頁]。
- 9 月、『新人』編集主任[書簡 16、262 頁]。
- 10 月、本郷会堂において「国民の思潮」と題して演説。

## 1903(明治 36)年

- 1 月 1 日、海老名弾正の意を承けて、『新人』社社に「新日本の精神的国是」を発表[書簡 16、262 頁]。24 日、高山樗牛追悼会に出席[「残雪録」『新人』]。30 日、千葉県千葉町の明道会支部学術演説会において「現今の三大問題」と題して演説[『新人』4・3]。
- 2 月 8 日、本郷会堂において「万朝報社の処世歌を評す」と題して演説予定[書簡 17、270 頁]。19 日、帝国大学文科哲学科第 3 年生一同を代表して、三沢糾等と連名で「哲学館事件に関して学界の識者に言す」を『毎日新聞』に発表。
- 4 月 3～10 日、斉藤信策と東海地方に小旅行。
- 5 月 31 日、明道会講演会で演説(於本郷教会)。
- 7 月、東京帝国大学卒業。1 日、新井奥達「光瀾之観」(『女学雑誌』516、6 月 15 日)を「千古の名文」と評した「新井奥達氏の妙文」を『新人』時評欄に発表。12 日、神戸同志夏期講習会(12～16 日)に参加し、第 1 日夜、青年大演説会で「青年基督教徒の使命」と題して演説。26 日、明道会講演で「社会の革新」と題して講演(於日本橋区馬喰町立花亭)。
- 9 月、毎日新聞社(社長島田三郎)に入社、愛涛、愛涛漁郎、汀鷗、黒頭尊者、文壇子等の署名で文芸欄「毎日文壇」を担当。

## 1904(明治 37)年

- 1 月 10 日、島崎藤村の小説「水彩画家」(『新小説』1 月号)の批評「『水彩画家』を読む」を『毎日新聞』に発表。
- 3 月 12 日、第 10 回帝国文学大会で『帝国文学』編輯委員に選出(～明治 39 年 3 月)。
- 4 月 17 日、本郷教会で「超現代党」と題して説教。27 日、大町桂月著『青年訓』(1 月刊)を批評した「『青年訓』を評す」を『毎日新聞』に発表(～28 日)。

- 5月1日、明道会演説会で「活靈魂と新天国」と題して演説。
- 7月10日、木下尚江著『火の柱』を批評した「小説火の柱を読む」を『帝国文学』に発表[大井胤治『光炎 鼎浦小山東助伝』(世界文庫、1967年)272頁]。
- 10月2、3日、小泉八雲の追悼文を『毎日新聞』に発表。
- 11月6日、新人社演説会で「近代思潮と信仰問題」と題して演説(於本郷会堂)。30日夜、本郷教会で「信仰生活の興味」と題して説教。

## 1905(明治38)年

- 4月16日、本郷教会で「長老ガボンと文豪トルストイ」と題して説教。
- 5月21日夜、本郷教会で「清き生活」と題して説教。
- 6月5日、『毎日新聞』に、鼎浦署名の社説「露帝は国会を召集す可き乎」を発表、以後「社説」または「論説」の執筆が多くなる。18日、本郷教会で「現代宗教」と題して説教。
- 10月15日、本郷教会で「革新の気象」と題して説教。
- 12月2日、岩野泡鳴『冥想詩劇』(11月刊)を批評した「『冥想詩劇』を読む」を『毎日新聞』に発表。

## 1906(明治39)年

- 1月14日、吉野作造渡清送別会で送別の辞を述べる(於本郷教会)。28日夜、本郷教会集会で「青年は何を恋ふるや」と題して説教。
- 3月26日、帰郷。
- 4月16日、組合教会の集中伝道(6~22日)に参加するため、仙台着。17日、忠愛之友倶楽部第16回記念演説会で「現代青年の志望」と題して演説(於日本キリスト教会堂)。18日、医学専門学校にて「信仰の生涯」と題して演説。19日、第二高等学校文芸部主催演説会で「興国の最大要素」と題して演説。20日、『新人』購読者会(於五城館)にて新人社を代表して挨拶。22日夜、「清浄堅固の生活」と題して伝道説教。23日、帰京[『基督教世界』1184、1185]。29日、本郷教会で「新鮮なる生活」と題して説教。
- 5月13日、本郷教会で「基督と自然」と題して説教。中村吉蔵(春雨)渡欧送別会で、内ヶ崎作三郎とともに送別の辞を述べる(於本郷教会)。
- 6月3日夜、本郷教会集会で「米国に於ける文豪ゴルキーの活悲劇」と題して説教。
- 9月13日、国民作新会の晩餐会(麹町富士見軒)に出席[「国民作新会詳報」『東京毎日新聞』9月15日]。
- 10月7日夜、本郷教会集会で「静黙三十年」と題して説教。14日夜、本郷教会集会で「現代の予言者」と題して説教。
- 11月8日、組合教会横浜集中伝道(5~11日)第4日演説会で「新時代の婦人」と題して演説[『基督教世界』1212]。
- 12月16日、大日本平和協会演説会で「平和理想の将来」と題して演説の予定[『基督教世界』1216]。

## 1907(明治40)年

- 1月20日、新人社演説会で「第二の文芸復興」と題して演説(於本郷教会)。
- 3月2日、本郷教会にて陸軍教授松井昇娘菊野との結婚式挙行(媒酌人島田三郎夫妻)。
- 5月20日、本郷教会伝道会で「信仰の立脚地」と題して説教。
- 7月7日、長崎革新会発会式に出席する島田三郎に随行し、東京を出発。9日、長崎着。11日、長崎革新会発会式に出席。佐世保、門司、宇和島、松山、丸亀、高松、岡山を経て、23日、帰京。
- 9月17日、綱島梁川の告別式(於本郷教会)に参列。
- 10月7日、新人社講演会で「国体進化論」と題して講演(於横浜伊勢)。20日、本郷教会で「久遠悠久の生活」

と題して礼拝説教[『新人』8-11]。

11月1日、「国体進化論」を『中央公論』に発表。9日、本郷教会秋季伝道会(8～10日)第2日に「信の悦」と題して説教。23日、本郷教会十年記念祝賀会で本郷教会略史を演述[『新人』8-12]。

12月8日夜、本郷教会集会で「此世に永遠の愛ありや」と題して説教。29日夜、本郷教会集会で「古今の芸上に現れたる猿」と題して説教[『新人』9-1]。

## 1908(明治41)年

1月17日、長女喜美子誕生。19日、本郷教会年次総会において執事に選出される[『新人』9-2]。

2月16日夜、本郷教会集会で「英国の二大人物」と題して説教。22日、本郷教会土曜倶楽部第1回公開演説会に登壇[『新人』9-3]。

3月7日、本郷教会の春期集中伝道会(5～8日)で「奨励」と題して演説。25日夜、本郷教会の「あやめ会」第5回演奏会に出席、朗読を披露[『基督教世界』1287]。

6月6日夜、明道会講演会で「文芸家と新宗教」と題して演説(於本郷教会)[『新人』9-7]。同月、鎌倉に転居[「久潤の辞」『基督教世界』1328]。

7月12日、本郷教会の礼拝説教で「基督教の最高原理」と題して説教[『新人』9-8]。

8月16日、内ヶ崎作三郎渡英送別会で新人社を代表して送別の辞(於上野公園韻松亭)[『新人』9-9]。

9月13日、本郷教会の礼拝説教で「眼を開け」と題して説教。

10月4日、本郷教会の礼拝説教で「現世天国」と題して、18日夜、伝道説教で「現代福音とは何ぞや」と題して説教[『新人』9-11]。

11月5日、『基督教世界』「社告」が、鼎浦を「在京特別寄書家」として招聘することを伝え、以後『基督教世界』への寄稿が多くなる。

12月20日、本郷教会の伝道説教で「近代思想界の所感」と題して説教[『新人』10-1]。

## 1909(明治42)年

2月17日、『社会進化論』(博文館)刊行。

4月11日、本郷教会婦人会講演で「現代文学と女性」と題して講演。17日、春期伝道会(16～18日)で「有神私観」と題して演説[『新人』10-5]。

5月2日、本郷教会の伝道説教で「有神私観」と題して講演[『新人』10-6]。

8月6日、親友斉藤信策死去、15日、静岡県清水在不二見村(現静岡市)竜華寺の本葬式に参列。下旬、毎日新聞社の経営をめぐる対立で主筆田中穂積が退社し、同時に退社する。

9月1日、「斉藤信策君を憶ふ」を『新人』に、「霊覚の人斉藤信策君」を『開拓者』に、「斉藤信策君の履歴に就て」を『帝国文学』に発表する。10日、早稲田大学講師就任、倫理および新聞研究科の講座を担当。23日、斉藤信策追悼会に参列。

10月2日、明道会講演会(於本郷教会)で「信仰の根本問題」と題して講演[『新人』10-11]。

11月頃、イギリス留学から永井柳太郎が帰国し、早稲田大学に教鞭をとるに際し、「早稲田大学は慨世憂国の志士、故小野梓の屍を基礎となし、経国済民の熱血に彩られたる独立自由の学堂なり、日本官私大学尠しとせざれども、然も早稲田大学の如く尊貴なる歴史を有する大学はなし、苟も早稲田大学に教師たらむとするものは此の至誠憂国の創立者の精神を以て己が精神とするの覚悟なかるべからず」と激励する[永井柳太郎「早稲田大学講師時代」『六合雑誌』475]。

12月20日、海老名弾正帰国歓迎会(於本郷教会)に出席。同日、「近代思想界の所感」と題して伝道説教[『新人』11-1]。

## 1910(明治 43)年

- 3月1日、東京日日新聞社の客員政治記者として「思潮」欄を担当（～同年11月1日）。6日、『東京日日新聞』で、礫山荻原守衛の「文覚」・「労働者」、製作中の「女」を評して「生の芸術」と賞賛。
- 4月3日、本郷教会の夜間説教に登壇、「新信仰の揺籃」と題して説教。22日、本郷教会の夜間説教に登壇、「基督教の新生命」と題して説教。
- 5月7日、荻原守衛追悼会に参列。
- 6月12日、惟一館日曜演説で「理想的人格としての釈尊及耶蘇」と題して演説。
- 秋、木下尚江から岡田式静坐の指導を受け、以後、静坐を継続する[「静坐に関する感想」『六合雑誌』379]。
- 9月15日、姉崎正治『根本仏教』(7月刊)を批評した「『根本仏教』を讀みて」を『東京日日新聞』に発表。  
18日夜、新人10周年記念大講演会で「宗教界に於ける新人の使命」と題して演説[『基督教世界』1412]。  
30日、早稲田哲学会例会(島村抱月「形式美の分解」発表)に出席[『早稲田学報』]。
- 10月、高田耕安経営の湘南茅ヶ崎の南湖院サナトリウムに妻菊野とともに入院。
- 11月5日、早稲田大学を退職。

## 1911(明治 44)年

- 7月、退院。
- 10月7日、『内外教育評論』主筆木山熊次郎の追悼講演会(於神田青年会館)に出席、発起人として司会をつとめる[『内外教育評論』5-11]。
- 12月、内ヶ崎作三郎が牧師をつとめる統一基督教会(東京ユニテリアン教会の改称)に入会。

## 1912(明治 45・大正元)年

- 1月27日、統一基督教会披露会に出席[『福音新報』866、1912年2月1日]
- 2月7日、大日本平和協会幹事会で幹事に任命、同理事会で雑誌『平和』の発行により出版部長に選定(鈴木文治編輯)。11日夜、統一基督教会の紀元節祝賀礼拝説教で「新日本と基督教」と題して説教(於惟一館)。  
12日、大日本協会幹事に出席。18日、基督教同志会講演(於神田美土代町青年会館)で開会の辞を述べる。20日、『久遠の基督教』を刊行(警醒社)。
- 4月1日、『久遠の基督教』に対する海老名弾正の批判(紫海「小山氏の『久遠の基督教』を讀む」『新人』13-3、1912年3月1日)に対して、「予が著述の精神を明らかにす(海老名先生の御批評に答へて)」を『新人』に発表。
- 7月19、20日、統一基督教弘道会・基督教同志会主催の夏期講習会(15日～20日)で「基督教の神秘主義」と題して講演。
- 9月、早稲田大学講師就任。千葉県立園芸専門学校(千葉大学園芸学部の前身)講師に就任。
- 10月4日、統一基督教会秋期特別講演会で、「文明批評家としての基督」と題して講演。5日、「故木山主筆一周年記念教育講演会」(於神田青年会館)で、「木山学士を懐ふ」と題して講演[『内外教育評論』6-11]。

## 1913(大正 2)年

- 4月4日、『光を慕いて』を刊行(警醒社)。15日、統一基督教弘道会主催第15回通俗講話会で「国民品性論」と題して講演(於惟一館)。27日夜、『六合雑誌』同人の講演会(於惟一館)で「全人の宗教と意志の宗教」と題して講演し、オイケン哲学を紹介する。
- 5月8日、マコーレー古稀祝賀会(於芝三緑亭)に出席。夜、『六合雑誌』同人の講演会で「全人の宗教と意志の宗教」と題して講演。
- 7月1日、「国体観念と自由思想」を『国家及国家学』に発表。11日(～17日)、基督教同志会主催夏期講習会で「神の国と精神生活」と題して講演(於統一基督教会)。

- 8月6日、斉藤信策の遺稿集『哲人何処にありや』に収録する「本書の編輯に就て」を脱稿。
- 9月、関西学院(関西学院大学の前身)高等科文科長に就任。3日、東京を発ち、関西に向かう。
- 10月17日、神戸女学院主催関西秋季修養会で、「近世女性の典型」と題して講演[『女子青年界』10-10、pp.41-42]。20日、斉藤信策の遺稿集『哲人何処にありや 斉藤信策遺稿』を刊行(博文館)。
- 11月26日、大隈重信が関西学院で演説、鼎浦が作詞した大隈重信歓迎歌を生徒が斉唱(書簡 37、311頁)。
- 12月27日、加藤直土夫人綱子の葬儀(於大阪教会)に参列し、故人の略歴を朗読する[『基督教世界』1580]。

## 1914(大正 3)年

- 3月7日、神戸基督教青年会主催講演会で「近代思想の二大権化」と題して講演[『基督教世界』1590]。
- 4月19日夜、神戸教会にて「時勢の変を想ふ」と題して講演[『基督教世界』1596]。
- 5月、『横浜貿易新報』論説欄担当。3日夜、大阪天満教会講演会にて「民衆主義と基督教」と題して講演[『基督教世界』1598]。4日、加藤直土渡英送別会(於日本ホテル)に出席し送別の辞を述べる[『基督教世界』1598]。
- 6月1日、富永徳磨『基督教の根本問題』(警醒社書店、3月刊)の書評を『新人』に発表。20日夜、神戸教会創立40年記念講演会で「過去現在未来の基督」と題して講演[『基督教世界』1606]。
- 9月26日、京都平安教会秋季講演会(第1日)にて「万有神観及び人格神観に就いて」と題して講演、27日朝、同教会の日曜礼拝で「新文明の曙光」と題して説教、同日夜(講演会第2日)、「信仰生活に於けるキリストの地位」と題して講演[『基督教世界』1619]。
- 10月25日、夫人菊野永眠。29日、本郷教会にて葬儀[『基督教世界』1624]。

## 1915(大正 4)年

- 1月22日、神戸教会婦人会にて「婦人の自覚」と題して講演[『基督教世界』1636]。24日、第12回衆議院議員選挙に立候補するため、関西学院に辞意を伝える。28日、関西学院の学生に告別演説。29日、上京する[「六甲山麓より都大路へ」『六合雑誌』383]。
- 2月、『横浜貿易新報』主筆就任。11日、東京を発ち、12日、仙台着。13日、気仙沼着。14日、気仙沼にて政見発表演説会を開き「大正革新の真意義」と題して演説[西淵生「政界に表れたる鼎浦氏」『基督教世界』1641]。以後、本吉郡内を演説。20日、仙台市国分町の開明座にて演説会を開き、「大正維新」と題して演説[内ヶ崎作三郎「雪の仙台より」『六合雑誌』]。21日、石巻にて「政治家の使命」と題して演説[内ヶ崎作三郎「石の巻より」『六合雑誌』]。以後、古川、若柳、築館、吉岡、刈田郡白石町で演説。
- 3月25日、衆議院議員当選(大隈伯後援会所属)。30日、気仙沼の大火で生家が全焼、郷里救済のため東奔西走する。
- 4月14日、政府系の初当選議員および前無所属議員を中心とする院内会派無所属団(11月17日、公友倶楽部と改称)に所属[『議会制度百年史 院内会派篇 衆議院の部』]。29日夜、安部磯雄・内ヶ崎作三郎とともに六合雑誌主催総選挙批判演説会に出席し、総選挙を批評(於三田統一基督教会)。
- 5月1日、『六合雑誌』「編輯たより」が「本郷大学前大津旅館に止宿中」と伝える。8日、統一基督教会春季特別伝道説教で「基督伝の感興」と題して演説、同日夜、「刻下の重大問題」と題して講演(於惟一館)。9日、「異性の愛と基督の愛」と題して演説(於惟一館)[『六合雑誌』413]。
- 7月、横浜根岸療養院に入院。
- 10月、退院。
- 11月9日、病をおして大正天皇即位式(於京都)に参列。11日、京都にて咯血。下旬、鎌倉泉ヶ谷の寓居にて静養。

## 1916(大正 5)年

- 1月1日、東京毎日新聞社(社長頼母木桂吉)主筆就任。
- 10月10日、憲政会が結成され入党する。

## 1917(大正 6)年

- 1月1日、『大学評論』創刊、玉芙蓉閣主人の署名で巻頭論文を執筆(～1918年5月)。26日、帝国議会報告「討議議会解散の日ー下院の一隅よりー」を『東京毎日新聞』に発表。
- 2月15日、仙台市において政見発表演説会を開き、第13回総選挙に立候補。
- 3月1日、「立候補宣言書」を『六合雑誌』に発表。
- 4月21日、衆議院議員当選。22日、帰京。29日夜、内ヶ崎作三郎、安部磯雄とともに自由基督教会特別講演会に出席し、総選挙を批評する。30日、市外高田村に転居。
- 6月25日、第39回帝国議会(6月23日～7月14日)衆議院予算委員会委員に選出、29日、市町村教育費国庫補助に関する建議案外二件委員会の理事に指名される。
- 7月2日、衆議院予算委員会第二分科会(内務省所管)で、貿易商事会社高田商会をめぐる石炭販売権不正契約、高等警察の費用、図書検閲費、言論圧迫の問題、宮城県河川事業予算、満州朝鮮における殖民政策について質問。3日、予算委員会第二分科会で朝鮮統治について質問、衆議院本会議にて言論圧迫に関する質問演説。5日、予算委員会第二分科会で南洋開発会社への船舶貸与事件について質問。9日、衆議院市町村教育費国庫補助に関する建議案外二件委員会で市町村立小学校費国庫補助法案について発言。11日、衆議院請願委員会で仙台市水道工事助成に関する件で発言。14日、衆議院本会議で市町村立小学校費国庫補助法案について発言。
- 8月10日、江木衷『理想の憲政』(5月刊)を批評した「江木博士の『理想の憲政』を読みて所感を陳ぶ」を『第三帝国』に発表。13日、東京を発ち、軽井沢にて静養。16～23日、『東京毎日新聞』に軽井沢静養生活を掲載。
- 9月16日、自由基督教会で「靈性最深の叫び」と題して説教。23日、自由基督教会で「力の宗教と愛の宗教」と題して説教。30日、自由基督教会で「神人默契」と題して説教。同日、統一基督教会秋季特別講演会で「世界戦と文明精神」と題して講演。
- 10月10日、『第三帝国』主幹石田友治入監に伴い主幹代行、無署名で巻頭論文を執筆(～11月10日)。
- 12月22日、樗牛会主催の樗牛忌辰記念講演会(於青年会館)で「欧州大戦の哲学的背景」と題して講演。28日、第40回帝国議会(12月27日～3月26日)衆議院予算委員に選出される。

## 1918(大正 7)年

- 1月1日、「日本国民の三大理想」を『大学評論』に、「祖国の為め神の都の為め」を『新人』に発表。2日、「国民的理想論」を『横浜貿易新報』に発表(～13日)。29日、衆議院予算委員会で、国民精神の指導、一般行政、財政、外交方針について質問。
- 2月1、2、4日、衆議院予算委員第四分科会で陸海軍軍事予算について質問。4日、衆議院予算委員第一分科会で講和問題について質問。
- 3月17日、鎌倉扇ヶ谷に移転。30日、統一基督教弘道会総会にて出席、役員改選で会長に重任(於神田多賀羅亭)。
- 12月24日、第41回帝国議会衆議院開院式に参列、最後の登院となる。

## 1919(大正 8)年

- 2月1日、松井須磨子を弔う漢詩「天才比翼塚之詩」を『青年雄弁』に発表。
- 4月、鎌倉町浄明寺の境内に新宅(鼎浦庵)が落成し、移転。



8月25日、鎌倉浄明寺の鼎浦庵で逝去。26日、告別式。

9月24日、友人同志の発起により神田青年会館で故小山東助氏追悼会および追悼講演会開催(「故小山東助氏追悼会と追悼講演会記事」『六合雑誌』466)。

## II 小山東助著作目録

### 1. 単行書

『社会進化論』[帝国百科全書 第189編]博文館、1909年2月17日[『全集』①収録]

『久遠の基督教』警醒社、1912年2月20日[『全集』②収録]

『光を慕ひて』警醒社、1913年4月4日[『全集』②収録]

収録評論	初出	原題
予は仏陀より基督に往けり	『新人』12-11、1911年11月1日	
死の一線を越えたる生の宗教	『新人』13-5、1912年5月1日	
目を閉ぢよ	『六合雑誌』375、1911年4月1日	
眼を開け	『六合雑誌』378、1911年7月1日	
万有と神	『基督教世界』1503、1911年7月4日	万有と歴史と神
本来の我	『基督教世界』1500、1912年6月13日	本来の我と生命の神
耶蘇の人格と生命の創造	『開拓者』81、1913年1月1日	耶蘇の人格に触れよ
自然詩人を憶ふ	『帝国文学』11-7、1905年7月10日	

### 2. 単行書所収

「一現時の青年に助くべき長所、二現時の青年に改むべき短所及其の救済、三青年の修様に関する理論上の教訓、四青年の修様に指導たるべき書籍、五学生時代の経歴逸話」『青年修養問題』集文館、1908年4月

本書の編輯に就て『哲人何処にありや 齊藤信策遺稿』(姉崎正治・小山鼎浦編)博文館、1913年9月10日20日

齊藤信策君小伝『哲人何処にありや 齊藤信策遺稿』(姉崎正治・小山鼎浦編)博文館、1913年10月20日

野の信策小伝『樗牛兄弟』(太田資順編)有朋館、1915年6月20日[「齊藤信策君小伝」『哲人何処にありや』の再録]。

野の人の思ひ出『樗牛兄弟』(太田資順編)有朋館、1915年6月20日

### 3. 新聞・雑誌掲載<788 篇>

#### 1890(明治 23)年

慎重[高等小学校時代の作文帖から][『思想と生涯』収録]

#### 1895(明治 28)年

\*新詩人の産声『桜』月日未詳

#### 1896(明治 29)年

禪の扉[「鶯歌燕舞」]『文庫』3-5、10月15日

#### 1897(明治 30)年

月夜鴉[春村、「鶯歌燕舞」、以下3篇「朽■しろ」、「朝の歌」、「鳴くからず」]『文庫』4-4、2月11日【春村】

雲のちぎれ[「鶯歌燕舞」]『文庫』4-6、3月5日【春村】

鳴鹿の松[「鶯歌燕舞」]『文庫』5-2、4月5日【春村】

下萌草[「鶯歌燕舞」、以下4篇「春のおとなひ」、「夢うつゝ」、「谷みづ」、「苔清水」]『文庫』5-4、5月5日【春村】

露の玉床[「鶯歌燕舞」、以下3篇「春の川」、「幽居の歌」、「山撫子」]『文庫』6-1、6月20日【春村】

河畔の晩歩[「鶯歌燕舞」]『文庫』6-2、7月5日【春村】

ゆく春[「鶯歌燕舞」、以下6篇「胡蝶」、「無題」、「小雨」、「雀と花びら」、「朝の歌」、「森の歌」]『文庫』6-6、9月5日【春村】

夏の雲[「鶯歌燕舞」、以下2篇「朝の磯」、「河瀬の歌」]『文庫』7-2、10月5日【春村】

秋扇[「鶯歌燕舞」、以下6篇「水の声」、「海鳥」、「磯辺に出でゝ」、「野の鳥」、「■のうた」、「鴻雁」]『文庫』8-1、12月20日【春村】[「水の声」「野の鳥」は、「秋風微吟」(『尚志会雑誌』33、明治31年12月)に転載]

秋野賦[「文苑」]『尚志会雑誌』25、12月25日【春村樵夫】[『全集』③収録]

#### 1898(明治 31)年

萩桔梗[以下4篇「絵馬堂」「岩燕」「野の鳥」「山茶花」]『文庫』8-3、1月5日【鼎浦吟客】

冬篋[「鶯歌燕舞」、以下4篇「墓畔」、「愁心」、「溪谷」、「湖辺」]『文庫』9-1、3月20日【春村】[「墓畔」は、「秋風微吟」(『尚志会雑誌』33、明治31年12月)に転載]

青春の夢[「文苑」]『尚志会雑誌』29、5月31日【春村樵侶】[『全集』③収録]

秋風微吟(新体詩)[以下4篇「友が誕会を祝ふとして」、「野の鳥」、「水の声」、「墓畔」]『尚志会雑誌』32、12月15日【春村】[『全集』③収録]

秋述懐[「懸賞文披露」]『尚志会雑誌』32、12月15日【天香庵】[『全集』③収録]

秋の歌の中より[「文苑」]『尚志会雑誌』33、12月30日【流星】

### 1899(明治32)年

春の歌の中より[「文苑」]『尚志会雑誌』35、6月30日【流星庵】[『全集』③収録]

感興雑筆『尚志会雑誌』37、12月22日【流星子】[『全集』③収録]

### 1902(明治34)年

幼天鵝春啼歌[「詞藻」、以下5篇「序歌」、「春山長嘯の賦」、「春与」、「雨夜放歌」、「落花啼鳥暮夜の歌」]『帝国文学』7-5、5月10日【幼天鵝】

行く春『新人』1-12、7月1日【幼天鵝】[『思想と生涯』収録]

青年詩人白星に与ふ『新人』1-12、7月1日【幼天鵝】

放鶴桜雑詠[「詞藻」、以下6篇「孤嘯吟」、「家弟に与ふ」、「晚春離別」、「『微風』の像に題す」、「長春夢」、「有縁無縁哀々の曲」]『帝国文学』7-7、7月10日【幼天鵝】

草雀小啼『新人』2-3、10月1日【幼鶴子】

鳥羽絵『新人』2-4、11月1日【白芙蓉】

秋海棠『新人』2-4、11月1日【白芙蓉】

落梅集と行く春『新人』2-5、12月1日【白芙蓉】[『思想と生涯』収録]

断片録『新人』2-5、12月1日【汀鷗生】[『思想と生涯』収録]

虚笛[「詞藻」、以下4篇「逍遙」、「秋思」、「妖夢」、「春雨」]『帝国文学』7-12、12月10日【幼天鵝】

### 1902(明治35)年

冬の感想『新人』2-5、1月1日【白芙蓉】

国民的理想『新人』2-7、2月1日[『全集』①収録]

吾が哀歎『新人』2-8、3月1日【白芙蓉】

詩篇小論『新人』2-8、3月1日【白芙蓉】[『思想と生涯』収録]

春雑筆『新人』2-10、5月1日【白芙蓉】

さゞなみ『新人』2-10、5月1日【蟹の子】

現今の新体詩家『帝国文学』8-5、9、10、5月10日、9月10日、10月10日

春風吟『新人』2-11、6月1日【里の子】

袖中消息『新人』2-11、6月1日【蟹の子】

隣人(ヂツケンス)『新人』2-12、7月1日【汀鷗】

青笠雑吟[里の子、以下5篇「伊豆山の夜思」、「生命の暁」、「天城山麓の春」、「石廊崎長嘯の賦」、「靈覚の富士山」]『新人』2-12、7月1日【里の子】

楽天家の秋『新人』3-3、10月1日【白芙蓉】  
夕雲静かに『新人』3-3、10月1日【里の子】  
秋思『新人』3-5、12月1日【里の子】  
婚約(マクス、ミュラー)『新人』3-5、12月1日【汀鷗生】  
初冬『新人』3-5、12月1日【里の子】  
落葉録『新人』3-5、12月1日【汀鷗生】

### 1903(明治 36)年

新日本の精神的国是【社説】『新人』4-1、1月1日【無署名】[『思想と生涯』収録書簡 16、262 頁に「主筆の意を承けて」執筆とある]  
邂逅(エドナ、ライアル)『新人』4-1、1月1日【汀鷗生】  
哲学館事件に関して学界の識者に言す『毎日新聞』2月19日【三沢糾等と連名】  
残雪録『新人』4-3、3月1日【汀鷗生】[『思想と生涯』収録]  
松井夫人の日記を読む『新人』4-4、4月1日  
文界雑評『新人』4-4、4月1日  
予言者の面影『新人』4-7、7月1日【汀鷗生】  
新井奥邃氏の妙文【時評】『新人』4-7、7月1日  
読『新島襄先生之伝』【毎日文壇】『毎日新聞』9月5、6、8日  
日本に於ける最初の歌劇【毎日文壇】『毎日新聞』9月9日  
ロマンチツク派の青年詩人『毎日新聞』9月12日  
芸苑瞥見【毎日文壇】『毎日新聞』9月16日  
卓上偶目【毎日文壇】『毎日新聞』9月19日  
当今の文芸批評【毎日文壇】『毎日新聞』9月20、21日  
円了博士の修身教会を評す【毎日文壇】『毎日新聞』9月23～25日  
私立大学の教育家に言す【毎日文壇】『毎日新聞』9月28日  
白羽の胡蝶よ『新人』4-10、10月1日【蟹の子】【目次にはないが p.7 に掲載】  
旅路『新人』4-10、10月1日【蟹の子】  
青年男女の交際【時評】『新人』4-10、10月1日  
文芸界の二小説【毎日文壇】『毎日新聞』10月5日  
如何にして漢学者は復活すべきか【毎日文壇】『毎日新聞』10月7日  
耶蘇教界の一警語【毎日文壇】『毎日新聞』10月19日  
文芸時評【毎日文壇】『毎日新聞』10月20日  
美文と美文作家【毎日文壇】『毎日新聞』10月21日

通俗の自然科学者[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月29日  
現代の芸術家[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月30日  
文界雑評[「毎日文壇」]『毎日新聞』11月11、14、16日  
小陶が浜の秋思[「文苑」]『新人』4-12、12月1日【蟹の子】

### 1904(明治37)年

新年の小説界[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月5～7日【文壇子】  
現代文学の欠陥[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月8日  
『水彩画家』を読む[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月10日【文壇子】  
円了博士の対露余論を破す[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月12、13日  
『時代思潮』を餞す[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月14日  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月15日【文壇子】  
詩界瞥見[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月19、20日【文壇子】  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月24～26日【文壇子】  
文界瞥見[「毎日文壇」]『毎日新聞』2月8日【文壇子】  
宗教家の警省を促す[「毎日文壇」]『毎日新聞』2月15、16日  
観望台[「毎日文壇」]『毎日新聞』2月24日  
超戦争観[「雑録」]『新人』5-3、3月1日  
欧州画家の二巨人[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月5、6日【文壇子】  
教育界の提醒[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月12日  
近時の著作界[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月26日【文壇子】  
米国宗教界の同情と日本人の精神的覚醒『毎日新聞』4月8～10日  
『青年訓』を評す[「毎日文壇」]『毎日新聞』4月27、28日  
小説「労働問題」を読む[「毎日文壇」]『毎日新聞』4月30日  
演劇と教会[「毎日文壇」]『毎日新聞』5月4日  
文芸の活教訓[「毎日文壇」]『毎日新聞』5月5日  
超現代党[「雑報」]『帝国文学』10-5、5月10日[『全集』③収録]  
画家ウェレスチャギン[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月5～7日【無署名】  
自叙論の著者を懐ふ[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月8日【無署名】  
露西亜の新戯曲[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月10、11日【無署名】  
マックス、ノルダウ氏の日本文芸観[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月23日  
黄禍論に関する二著述[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月26、27日【無署名】

露文豪ゴーゴリ[「毎日文壇」]『毎日新聞』7月8日  
小説火の柱を読む[「雑報 批評」]『帝国文学』10-7、7月10日【安波三郎】  
国民的色彩[「毎日文壇」]『毎日新聞』7月12日【無署名】  
小泉八雲を悼む[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月2、3日【文壇子】  
組合教会の旗幟[「時評」]『新人』5-12、12月1日【汀鷗生】  
日本基督派と独立教会[「時評」]『新人』5-12、12月1日【汀鷗生】

### 1905(明治38)年

琴と葡萄と鳩『新人』6-1、1月1日【白芙蓉】  
小泉八雲の「怪談」を読む[「雑報」]『新人』6-1、1月1日  
大西博士全集集成[「時評」]『新人』6-2、2月1日  
万国議会[「時評」]『新人』6-3、3月1日  
社会勢力としての教会[「時評」]『新人』6-4、4月1日  
国民文学史の編述に就て[「雑報」]『帝国文学』11-4、4月10日  
韓国教育の方針[社説]『新人』6-5、5月1日【無署名】  
朝鮮同化論[「論説」]『新人』6-5、6、5月1日、6月1日[収録]  
日欧名家の交換講演[「雑報」]『帝国文学』11-5、5月10日  
洋画批評と現代画家[「雑報」]『帝国文学』11-5、5月10日  
悲曲新浦島『帝国文学』11-5、6、5月10日、6月10日[『全集』③収録]  
何故に女学生を軽蔑するか[「時評」]『新人』6-6、6月1日  
夏期学校の新紀元[「時評」]『新人』6-6、6月1日  
露帝は国会を召集す可き乎[社説]『毎日新聞』6月5日  
偉僧ガボンの性格[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月6～12日【黒頭尊者】  
国民性と個人性[「雑報」]『帝国文学』11-6、6月10日[『全集』③収録]  
現代思想界の暗潮[社説]『毎日新聞』6月13日  
露公使カシニー伯[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月16～18、20、21日【黒頭尊者】  
日本人の天才[社説]『毎日新聞』6月19日  
新著瞥見[「毎日文壇」]『毎日新聞』6月24～27、30日  
独米元首の交歓[社説]『毎日新聞』7月3日  
北米国務卿の長逝を悼む[社説]『毎日新聞』7月4日  
ヘイ氏の人格[「毎日文壇」]『毎日新聞』7月5～7、9～10日【黒頭尊者】  
叙事詩の新形式[「雑報」]『帝国文学』11-7、7月10日

自然詩人を憶ふ[「雑報」]『帝国文学』11-7、7月10日[『全集』②、『光を慕ひて』収録]

清韓の留学生[社説]『毎日新聞』7月11日【無署名】[7月19日付社説と同一執筆者であり、鼎浦執筆と推定]

遠来のタフト氏[「雑報」]『毎日新聞』7月12、14、16日【黒頭尊者】

新文学者[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』7月14日【黒頭尊者】

清国留学生に告ぐ(名を措て実を勉めよ)[社説]『毎日新聞』7月15日【無署名】[7月19日付社説と同一執筆者であり、鼎浦執筆と推定]

今の時と比公[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』7月17日【汀鷗】

清韓留学生問題[社説]『毎日新聞』7月19日

戦疫の予告[社説]『毎日新聞』7月24日

此滑稽[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』7月28日【汀鷗】

露国の空望[社説]『毎日新聞』7月31日

博物学の趣味[「毎日文壇」]『毎日新聞』8月5日【愛濤漁郎】

英仏の親近と支那問題[社説]『毎日新聞』8月7日

文部省の諮問案[社説]『毎日新聞』8月8日

夏の写生[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』8月8日【汀鷗】

新興の社会小説[「雑報」]『帝国文学』11-8、8月10日[『思想と生涯』収録]

若きラスキン[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』8月12日【愛濤漁郎】

怪譚の趣味[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』8月15日【愛濤漁郎】

理屈[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』8月19日【愛濤漁郎】

菊と薔薇[「緑蔭閑話」]『毎日新聞』8月28日【汀鷗】

天下の風教を如何[「時評」]『新人』6-9、9月1日

社会改良の将来[「時評」]『新人』6-9、9月1日[『思想と生涯』収録]

戦後文壇の観察[「毎日文壇」]『毎日新聞』9月6日【文壇子】

早雲寺[「剪灯閑話」]『毎日新聞』9月9日【愛濤】

観望台 北斎とメンツエルと[「毎日文壇」]『毎日新聞』9月24日

杜翁の新論文[「毎日文壇」]『毎日新聞』9月26、27、30日

沙翁全集の翻訳[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月4日【愛濤漁郎】

保護権の確立[社説]『毎日新聞』10月8日

新講談を起せ[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月8日【愛濤漁郎】

今後の教育方針[社説]『毎日新聞』10月9日

青柳物語の伝唱[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月12日【愛濤漁郎】

社会主義の運命[社説]『毎日新聞』10月13日



末松博士の詩論と湖処子の文品[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月13日【愛涛漁郎】  
婦人と社交『毎日新聞』10月15日【愛涛漁郎】  
病間録の著者[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月20日【愛涛漁郎】  
ストーヂ博士の詩篇[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月24日【愛涛漁郎】  
近来の翻訳詩に就て[「毎日文壇」]『毎日新聞』10月26日【愛涛漁郎】  
噫英雄魂[「雑報」]『新人』6-11、11月1日【L、L、L】  
文部の新令[社説]『毎日新聞』11月5日  
文学史の新好著[「毎日文壇」]『毎日新聞』11月8日【愛涛漁郎】  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』11月9、10日【愛涛漁郎】  
ウイツテの現地位[社説]『毎日新聞』11月11日  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』11月24日【愛涛漁郎】  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』11月26日【愛涛漁郎】  
歌壇の瞥見[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月1日【愛涛漁郎】  
『冥想詩劇』を読む[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月2日【愛涛漁郎】  
学士会院論[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月4日【愛涛漁郎】  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月5日【愛涛漁郎】  
文法上の新規定[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月6日【愛涛漁郎】  
現代の神秘趣味[「雑報」]『帝国文学』11-12、12月10日  
樗牛の書簡[「批評」]『帝国文学』11-12、12月10日  
枕頭漫言[「毎日文壇」]『毎日新聞』12月18日【愛涛漁郎】  
時代精神論『毎日新聞』12月20、23、24、26～30日[31日は未見]【愛涛漁郎】  
露国の革命戦[社説]『毎日新聞』12月30日

### 1906(明治39)年

日韓関係の新紀元(保護条約に満足する勿れ)『新人』7-1、1月1日  
朝鮮に対する罪悪[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
万国青年会の創始者(サー、ジョージ、ウィリアムスを想ふ)[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
高山樗牛の書簡[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
新紀元党の旗色を評す[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
池臯雨郎の詩集を読む[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
預言者か宗教狂か[「時評」]『新人』7-1、1月1日  
文学界の春色[「毎日文壇」]『毎日新聞』1月10、12、13、16日【愛涛漁郎】

軍制改革の要義[「社説」]『毎日新聞』1月14日  
関税上の新口盟[「社説」]『毎日新聞』1月15日  
英国政界の教訓[「社説」]『毎日新聞』1月26日  
亜細亜精神の復活[「時評」]『新人』7-2、2月1日[『全集』①収録]  
東遊の英国説教家[「時評」]『新人』7-2、2月1日  
外交方針の声明[「社説」]『毎日新聞』2月4日  
青年支那の進路[「社説」]『毎日新聞』2月6日  
神秘派と夢幻派と空霊派と[「雑報」]『帝国文学』12-2、2月10日[一部を「神秘派-綱島梁川」と題して、宇  
佐見英太郎編『見神論評』(金尾文淵堂、1907年)収録]  
飛雪録[「雑報」]『帝国文学』12-2、2月10日  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』2月10、13、14、16、18日【愛涛漁郎】  
議会の寄生虫[「社説」]『毎日新聞』2月13日  
沙翁全集の第二巻[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月6日【愛涛漁郎】  
無辺侠禪の新著[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月7日【愛涛漁郎】  
文界時評[「毎日文壇」]『毎日新聞』3月8、9日【愛涛漁郎】  
高華雄渾の趣味[「雑報」]『帝国文学』12-3、3月10日  
小学教師の待遇[「社説」]『毎日新聞』5月29日  
塩価制限法[「社説」]『毎日新聞』5月31日  
国運と競技[「社説」]『毎日新聞』6月5日  
清国学生と教育設備[「社説」]『毎日新聞』6月6日  
文相の新訓令[「社説」]『毎日新聞』6月11日  
国是と町村是[「社説」]『毎日新聞』6月13日  
政教分離の気運[「社説」]『毎日新聞』6月18日  
英露の国交[「社説」]『毎日新聞』6月30日  
東亜の公争と英米人の襟度[「社説」]『東京毎日新聞』7月7日  
露国の政変『東京毎日新聞』[「社説」]7月16日  
文豪ゾラの光誉[「社説」]『東京毎日新聞』7月18日  
婦人の社会的地位[「社説」]『東京毎日新聞』7月19日[『思想と生涯』収録]  
文教の新路を開拓せよ[「社説」]『東京毎日新聞』7月20日  
露国の形勢[「社説」]『東京毎日新聞』7月26日  
露人の国民的運動 英米政治家の同情[「社説」]『東京毎日新聞』7月29日  
平和運動の新紀元[「社説」]『東京毎日新聞』7月30日  
学生銷夏の一法[「社説」]『東京毎日新聞』7月31日

宣教師問題[「時評」]『新人』7-8、8月1日【T.O】  
北満州を査察せよ[社説]『東京毎日新聞』8月5日  
俘虜問題[社説]『東京毎日新聞』8月27日  
連合議会の成果[社説]『東京毎日新聞』8月31日  
文豪ゾラ『新人』7-9、9月1日  
国際平和の理想『新人』7-9、9月1日[『全集』①、『政治論集』収録]  
独逸の発達と教育の方針[社説]『東京毎日新聞』9月1日  
清国の教育[社説]『東京毎日新聞』9月6日  
北満州問題(再び)[社説]『東京毎日新聞』9月15日  
日英海軍の最近政策[社説]『東京毎日新聞』9月16日  
美術教育の方針[社説]『東京毎日新聞』9月17日  
学校長の選択[社説]『東京毎日新聞』9月20日  
露国の極東政策[社説]『東京毎日新聞』9月25日  
時代を超越するの道『新人』7-10、10月1日  
人類同胞愛と人種憎嫉観[社説]『東京毎日新聞』10月5日【無署名】  
義務教育年限問題[社説]『東京毎日新聞』10月7日  
日米大学の交換講演[社説]『東京毎日新聞』10月14日  
外交秘録の啓示[社説]『東京毎日新聞』10月15日  
米国の排日熱[社説]『東京毎日新聞』10月17日  
南米と日本[社説]『東京毎日新聞』10月18日  
実業家勢力の試金石[社説]『東京毎日新聞』10月21日【無署名】[『思想と生涯』収録]  
桑港市の排日熱[社説]『東京毎日新聞』10月21日  
仏国内閣[社説]『東京毎日新聞』10月22日  
対清経営と官民一致[社説]『東京毎日新聞』10月23日  
南米の新航路[社説]『東京毎日新聞』10月24日  
郡制廃止の可否[社説]『東京毎日新聞』10月25日[『思想と生涯』収録]  
何故に沈黙する乎(米国宣教師に告ぐ)[社説]『東京毎日新聞』10月29日  
雨奇晴好録[「時評」]『新人』7-11、11月1日  
教育家待遇の好模範 名古屋有志の美挙[社説]『東京毎日新聞』11月2日【無署名】  
国民教育と羅馬字[社説]『東京毎日新聞』11月5日[『思想と生涯』収録]  
発明家の保護[社説]『東京毎日新聞』11月6日  
仏国首相の宣言[社説]『東京毎日新聞』11月10日

米国政界の気運[社説]『東京毎日新聞』11月11日  
競技と自制力[社説]『東京毎日新聞』11月13日[『思想と生涯』収録]  
煤煙と都市生活[社説]『東京毎日新聞』11月14日[『思想と生涯』収録]  
教員補給の方法[社説]『東京毎日新聞』11月15日  
海軍進歩の傍訓[社説]『東京毎日新聞』11月16日  
独逸の地位[社説]『東京毎日新聞』11月17日  
婦人の新理想『新人』7-12、12月1日[『全集』①収録]  
学術研究所の特設[社説]『東京毎日新聞』12月3日  
青萍男の新著『東京毎日新聞』12月6、7日  
婦人問題[社説]『東京毎日新聞』12月12日  
ノーベル平和賞[社説]『東京毎日新聞』12月13日[『思想と生涯』収録]  
ノーベル平和賞の由来『東京毎日新聞』12月14日  
老雄の活動[社説]『東京毎日新聞』12月17日  
対外思想と教育『東京毎日新聞』12月19日【T.O】  
教育会議の成果[社説]『東京毎日新聞』12月23日  
独逸民族の勢力圏[社説]『東京毎日新聞』12月24日  
新設の美術院[社説]『東京毎日新聞』12月25日  
海牙会議の準備如何[社説]『東京毎日新聞』12月26日  
大日本史の完成[社説]『東京毎日新聞』12月29日  
月刊「黒潮」とは何ぞや『東京毎日新聞』12月29日【T.O】

## 1907(明治40)年

平和楽天の趣味(絵画に現はれし羊)『東京毎日新聞』1月1、2日  
文壇の初春『東京毎日新聞』1月8、9日【白芙蓉生】  
教育機関の充実[社説]『東京毎日新聞』1月9日  
殖民地の照魔鏡[社説]『東京毎日新聞』1月15日  
太平洋の彼岸[社説]『東京毎日新聞』1月19日  
郡制廃止案の運命[社説]『東京毎日新聞』1月27日  
独逸皇帝の地歩[社説]『東京毎日新聞』1月30日  
議会言論の敬重[社説]『東京毎日新聞』1月31日[『思想と生涯』収録]  
清国公使の気焰[社説]『東京毎日新聞』2月1日  
学習院の新生面[社説]『東京毎日新聞』2月2日

学校開放論[社説]『東京毎日新聞』2月4日[『思想と生涯』収録]  
韓民啓発の好望[社説]『東京毎日新聞』2月10日  
進歩党か退歩党か[社説]『東京毎日新聞』2月11日  
対米移民の危機[社説]『東京毎日新聞』2月20日  
基督教界の新傾向[「時評」]『新人』8-3、3月1日[『全集』②収録]  
衆議院の自信力[社説]『東京毎日新聞』3月9日【T、O】  
政界革新の本義[社説]『東京毎日新聞』3月9日  
宗教界の新現象[社説]『東京毎日新聞』3月10日  
国民史上の人物(沼南先生の意見を読み)『東京毎日新聞』3月11日[3月8日付無署名社説「世界的史上の人物」への批評【白芙蓉生】]  
日露親交の礎石[社説]『東京毎日新聞』3月15日  
婦人と政治[社説]『東京毎日新聞』3月19日  
郡制案の否決[社説]『東京毎日新聞』3月23日  
露国政界の観望[社説]『東京毎日新聞』3月25日  
新刑法と裁判官[社説]『東京毎日新聞』3月26日  
国民教育の新転歩[社説]『東京毎日新聞』3月29日  
軍備縮小の提案[社説]『東京毎日新聞』3月30日  
天下三分[社説]『東京毎日新聞』3月31日  
社交界の新風韻[社説]『東京毎日新聞』4月1日  
戦史の傍訓[社説]『東京毎日新聞』4月2日  
基督教東漸史の一段落『基督教世界』1231、4月4日  
宗教界の大転機[社説]『東京毎日新聞』4月8日  
日韓親和の礎石[社説]『東京毎日新聞』4月9日  
革新運動と政綱[社説]『東京毎日新聞』4月10日【無署名】  
独逸外交家の奇論[社説]『東京毎日新聞』4月11日  
英西両国の親誼[社説]『東京毎日新聞』4月12日  
政界と選挙[社説]『東京毎日新聞』4月14日  
都市と公会堂[社説]『東京毎日新聞』4月15日  
永遠の初恋『基督教世界』1233、4月18日[『全集』②収録]  
平和会議の使命[社説]『東京毎日新聞』4月22日  
英国の殖民地会議[社説]『東京毎日新聞』4月24日  
米国は移民を要す[社説]『東京毎日新聞』4月25日  
平和の使者 都築大使を送る[社説]『東京毎日新聞』4月26日【無署名】

戦争と文芸[社説]『東京毎日新聞』4月27日  
仏教徒に警告す[「時評」]『新人』8-5、5月1日  
国民史上の人物観[「時評」]『新人』8-5、5月1日  
租税以外の課税[社説]『東京毎日新聞』5月1日  
騒心閑筆『基督教世界』1235、5月2日[『全集』②収録]  
太平洋博覧会[社説]『東京毎日新聞』5月2日  
産業平和策[社説]『東京毎日新聞』5月5日[『思想と生涯』収録]  
全英帝国の統一『日本及日本人』459、5月15日  
労働問題の鬱興[社説]『東京毎日新聞』5月22日[『思想と生涯』収録]  
日米大使の更迭[社説]『東京毎日新聞』5月24日  
韓国万全の策[社説]『東京毎日新聞』6月2日  
自治体の分合[社説]『東京毎日新聞』6月4日  
鴉片問題[社説]『東京毎日新聞』6月5日  
産業平和の根本策[社説]『東京毎日新聞』6月11日[『思想と生涯』収録]  
東方盟主の地位『東京毎日新聞』6月16日【無署名】  
露国議会の運命[社説]『東京毎日新聞』6月18日  
美術奨励の便法[社説]『東京毎日新聞』6月21日  
庶民の弾力[社説]『東京毎日新聞』6月24日  
鉱業警察の価値[社説]『東京毎日新聞』6月28日[『思想と生涯』収録]  
芸術界の危機[社説]『東京毎日新聞』7月9日【無署名】  
京都より一筆『東京毎日新聞』7月10日  
初旅の山陽線『東京毎日新聞』7月12日  
蓬莱山下の一日『東京毎日新聞』7月13日  
長崎の革新運動『東京毎日新聞』7月15日  
九州革新の気運『東京毎日新聞』7月16日  
長崎の革新運動『東京毎日新聞』7月17日  
佐世保の一日『東京毎日新聞』7月19日  
新進気鋭の門司『東京毎日新聞』7月20日  
鎮西の地を去る『東京毎日新聞』7月22日  
佐田岬頭の夜半『東京毎日新聞』7月23日  
海南の一角より『東京毎日新聞』7月24日  
船車一日十七里『東京毎日新聞』7月31日

宗教界の外資輸入論[「時評」]『新人』8-8、8月1日【T、O、生】  
高浜より松山へ『東京毎日新聞』8月1日  
丸亀と琴平『東京毎日新聞』8月2日  
琴平画堂を観る『東京毎日新聞』8月3、4日  
高松より岡山へ『東京毎日新聞』8月6日  
局面或は新ならん 桑港民心の転機[社説]『東京毎日新聞』8月8日  
韓国青年に望む[社説]『東京毎日新聞』8月9日  
学生界の失意者[社説]『東京毎日新聞』8月10日  
戦闘術の革命[社説]『東京毎日新聞』8月11日  
賛頌歌裡の統監政治『日本及日本人』465、8月15日  
外来労働者[社説]『東京毎日新聞』8月16日  
刺客奨励の俗論[社説]『東京毎日新聞』8月18日  
学位令改正論[社説]『東京毎日新聞』8月24日  
根本的の治水策[社説]『東京毎日新聞』8月27日  
吾等は懐郷病者なり[「時評」]『新人』8-9、9月1日  
遺伝の勢力[「時評」]『新人』8-9、9月1日  
彼岸の日本移民[社説]『東京毎日新聞』9月2日  
韓国と宣教師[社説]『東京毎日新聞』9月3日  
仲裁制度の価値[社説]『東京毎日新聞』9月9日  
京都大学振興論[社説]『東京毎日新聞』9月10日  
選挙と革新[社説]『東京毎日新聞』9月12日  
選挙と革新(再び)[社説]『東京毎日新聞』9月14日  
境遇と性格『基督教世界』1256、9月26日[『全集』②収録]  
支那研究の好資料『東京毎日新聞』9月30日【T、O生】  
筑山正夫君を悼む『新人』8-10、10月1日  
基督教は何処に向って精力を集中す可き乎[「時評」]『新人』8-10、10月1日  
基督教文学者に望む[「時評」]『新人』8-10、10月1日  
移民問題[社説]『東京毎日新聞』10月1日  
最近選挙の教訓[社説]『東京毎日新聞』10月2日  
宗教に入るの門『基督教世界』1257、10月3日[『全集』②収録]  
操觚者の責任[社説]『東京毎日新聞』10月4日【無署名】  
靈魂春を感じ『基督教世界』1258、1259、10月10、17日[『全集』②収録]

地方政治の危機[社説]『東京毎日新聞』10月15日【無署名】  
輿論の勢力 米国学者の日本政治観[社説]『東京毎日新聞』10月16日  
京都大学に勸む[社説]『東京毎日新聞』10月18日  
霊肉一如の人生観『新人』8-11、11月1日[『全集』②収録]  
国体進化論『中央公論』22-11、11月1日[『全集』①収録]  
選挙権の尊重[社説]『東京毎日新聞』11月10日  
挿画解題[「時評」]『新人』8-12、12月1日  
悪風汚俗と基督教[「時評」]『新人』8-12、12月1日  
文芸美術と基督教[「時評」]『新人』8-12、12月1日  
文芸時評『東京毎日新聞』12月20日【汀鷗生】

### 1908(明治41)年

加藤君の新著を読む[「時評」]『新人』9-1、1月1日  
明治四十年年度の政界『基督教世界』1270、1月2日  
新芸術と新道徳『東京毎日新聞』1月7日  
自然派と真人生『東京毎日新聞』1月8日  
自治制改革論[社説]『東京毎日新聞』1月15日  
伝道上の軍略と戦術『新人』9-3、3月1日  
親と子『新人』9-4、4月1日  
帝国建設者の宗教(セシルローズが半面の性格)『新人』9-4、4月1日  
清浄心と凶大心[社説]『東京毎日新聞』4月26日  
宗教家と時代精神[「時評」]『新人』9-5、5月1日  
太平洋策の研究『成蹊』14、5月5日  
馬関海峡より『東京毎日新聞』5月11日  
女性美の好典型『新人』9-6、6月1日[『全集』③収録]  
教育家宗教家の社会的地位[「時評」]『新人』9-7、7月1日[『思想と生涯』収録]  
木下氏の近業を読む『新人』9-8、8月1日  
道徳観念の動揺と外来思想の消化[社説]『新人』9-8、8月1日[『全集』③収録]  
吾人の儒教復興観[社説]『新人』9-9、9月1日[『全集』③収録]  
基督教思想発展の新方向[社説]『新人』9-10、10月1日【無署名】[『全集』①収録]  
松村氏の新著を読む[「時評」]『新人』9-10、10月1日  
現代的福音とは何ぞや[社説]『新人』9-11、11月1日[『全集』①収録]



基督教と進化論[「論説」]『基督教世界』1316、11月19日  
自然を味うて神靈に感ず[「想苑」]『基督教世界』1317、11月26日[『全集』②収録]  
個人的救済と社会的革新[社説]『新人』9-12、12月1日【無署名】[『全集』①収録]  
青年思想界の代表的告白 木山君の『希望の青年』を読む[「時評」]『新人』9-12、12月1日  
一批評家に答ふ[「時評」]『新人』9-12、12月1日  
花の説教[「想苑」]『基督教世界』1318、12月3日[『全集』②収録]  
人道の哀音[「想苑」]『基督教世界』1320、12月17日[『全集』②収録]

### 1909(明治42)年

文明史上に於ける日本クリスチャンの地位[社説]『新人』10-1、1月1日【無署名】[『全集』①収録]  
久瀧の辞『基督教世界』1328、2月18日  
平民の子也平民の友也[「想苑」]『基督教世界』1329、2月25日  
図大心と意志力『基督教世界』1330、3月4日[『全集』②収録]  
加藤博士の疑問に就て(基督教信者としての实际的解釈)『基督教世界』1333、3月25日[『全集』③収録]  
予は春雨の夜を愛す『基督教世界』1333、3月25日  
湘南の春『新女界』1-1、4月1日[『全集』③収録]  
韓国伝道を如何す可き[「時評」]『新人』10-4、4月1日  
国土魂を發揮せよ[「時評」]『新人』10-4、4月1日  
予が学校騒動観[「学校騒動所感」]『内外教育評論』3-4、4月8日  
通俗説教家の好典型[「想苑」]『基督教世界』1336、4月15日  
現代に対する審判[「時論」]『基督教世界』1337、4月22日  
初夏の話題[「家庭講壇」]『東京毎日新聞』6月13日  
虚栄と自然[「家庭講壇」]『東京毎日新聞』6月27日  
進化論と基督教『新人』10-7、7月1日[『全集』③収録]  
霊覚の人 齊藤信策君[「論叢」]『開拓者』4-9、9月1日  
齊藤信策君を憶ふ『新人』10-9、10、9月1日、10月1日[「野の人 齊藤信策君逝く」と改題]『全集』③収録  
齊藤信策君の閱歴に就て『帝国文学』15-9、9月1日  
国民陶化の爲めに趣味教育を興せ[「論説」]『内外教育評論』3-9、9月8日  
政友会膨張の半面『無名通信』1-12、10月1日  
日本の将来は海に在り『日本及日本人』519、10月15日  
木山学士の『国勢と教育』を讀みて『新人』10-12、12月1日  
天国に入るの門『基督教世界』1372、12月23日[『全集』②収録]

## 1910(明治43)年

- 新しき基督教[「論説」]『基督教世界』1374、1月6日[『全集』②収録]
- 信仰上の中心問題[「論説」]『基督教世界』1376、1月20日[『全集』②収録]
- 現代思潮より宗教へ『新人』11-3、3月1日[『全集』②収録]
- 文明上の国是[「思潮」]『東京日日新聞』3月1日
- 文壇の趨向に就て[「思潮」]『東京日日新聞』3月2日【局外生】
- 議論と私情[「思潮」]『東京日日新聞』3月4日
- 「生」の芸術[「思潮」]『東京日日新聞』3月6日[『思想と生涯』収録]
- 新しき女性[「思潮」]『東京日日新聞』3月9日[『思想と生涯』収録]
- 第四王国の予言(仏耶両教の融合)[「思潮」]『東京日日新聞』3月17日[『全集』②収録]
- 東洋意識の復活[「思潮」]『東京日日新聞』3月18日
- 評論の評論[「思潮」]『東京日日新聞』3月25、26、29日[『思想と生涯』収録]
- 信仰帰一の確信[「時評」]『新人』11-4、4月1日[『全集』②収録]
- 京都学園の新色[「思潮」]『東京日日新聞』4月5日
- 評論家に警告す[「思潮」]『東京日日新聞』4月23日【局外生】
- 中心思想の推移[「思潮」]『東京日日新聞』4月24日【局外生】
- 新しき理想の追求[「思潮」]『東京日日新聞』4月28日【局外生】
- 軍人魂と教育家[「思潮」]『東京日日新聞』4月29日【局外生】
- 文豪ビョルンソン[「思潮」]『東京日日新聞』5月1、3日【北光望人】
- 記者文人の一事業 太平洋国を描け[「思潮」]『東京日日新聞』5月12日【太平洋人】
- 学術の普及に就て 学者解放の必要[「思潮」]『東京日日新聞』5月18日【局外生】
- 近時の宗教論[「思潮」]『東京日日新聞』5月20、22、24～26、31日、6月1～3日【静観盧主人】[『全集』②収録]
- 内ヶ崎君の新著に就て 敢へて『人生と文学』を推薦す『新人』11-6、6月1日
- 『帝国文学』[「思潮」]『東京日日新聞』6月17日【局外生】
- 東洋文物の新研究[「思潮」]『東京日日新聞』6月21日【局外生】
- 官学以外の学者[「思潮」]『東京日日新聞』7月1日【局外生】
- 再び『人生と文学』に就て『新人』11-7、7月1日
- 『牧師の家』は何事を教界に暗示する乎[「中村春雨氏の新著『牧師の家』評論」]『新人』11-7、7月1日
- 閉却された一疑問(夏期休暇の長短)[「思潮」]『東京日日新聞』7月2日【局外生】
- 郷土学の趣味(学生銷夏の一法)[「思潮」]『東京日日新聞』7月5日【局外生】
- 自然主義論の色分け[「思潮」]『東京日日新聞』7月6日【局外生】
- 古く新しき問題(国民道徳の基礎如何)[「思潮」]『東京日日新聞』7月9日【局外生】

新宗教の先駆[「思潮」]『東京日日新聞』7月12、13日【局外生】

海よりの書簡[「想苑」]『基督教世界』1401、1403、1404、1406、7月14、28日、8月4、18日[『全集』③収録]

全人の生活を想ふ『新人』11-8、8月1日[『全集』②収録]

理想的人格としての釈尊及耶穌[6月12日演説筆記於惟一館日曜演説、文責在記者]『六合雑誌』356、8月1日

就職難と世論[「思潮」]『東京日日新聞』8月4日【局外生】

中島博士の外遊所感[「思潮」]『東京日日新聞』8月10、14、16日【局外生】

江原氏の家族主義論[「思潮」]『東京日日新聞』8月19日【局外生】

黒板氏の欧州絵画論[「思潮」]『東京日日新聞』8月21日【局外生】

阪谷男の「三大理想」[「思潮」]『東京日日新聞』8月26、28日、9月1、2日【局外生】

楽園現前の消息(再び全人の生活を想ふ)『新人』11-9、9月1日[『全集』②収録]

朝鮮伝道の根本問題[「時論」]『基督教世界』1409、9月8日

卓上語[「思潮」]『東京日日新聞』9月11日【局外生】

「根本仏教」を讀みて[「思潮」]『東京日日新聞』9月15日【静観盧主人】

近時の国家主義論[「思潮」]『東京日日新聞』9月16、18、20日【局外生】

破壊思想の源泉[「思潮」]『東京日日新聞』9月22日【静観盧主人】

如何にして現代の青年を救はん乎[「思潮」]『東京日日新聞』9月23日【局外生】

英雄趣味の復活[「思潮」]『東京日日新聞』9月27日【局外生】

朝鮮伝道の意義[「論説」]『基督教世界』1412、9月29日

読物の標準に就て[「思潮」]『東京日日新聞』10月1日【局外生】

新人十年史の断片『新人』11-10、10月1日

最深最奥の要求(三たび全人の生活を想ふ)『新人』11-10、10月1日[『全集』②収録]

新人崛起の時代[「評論」]『開拓者』5-10、10月1日

科学と超科学[「思潮」]『東京日日新聞』10月8日【静観盧主人】

学界の恨事[「思潮」]『東京日日新聞』10月9日【局外生】

人種改善論の鼓吹[「思潮」]『東京日日新聞』10月13、14日【局外生】

所謂新しき科学[「思潮」]『東京日日新聞』10月15日【局外生】

信を失へる現代[「思潮」]『東京日日新聞』10月20日【局外生】

独創を欠ける学者[「思潮」]『東京日日新聞』10月26日【局外生】

秋の七夜[「詞藻」]『基督教世界』1416、1418、1419、10月27日、11月10、17日[『全集』③収録]

現代の傾向に就て[「思潮」]『東京日日新聞』10月28、29日、11月1日【局外生】

秋の七夜を結ぶ『基督教世界』1420、11月21日

〔現代名士のトルストイ観〕『教文評論』1-9、11月28日

茅ヶ崎雑詠の中より『基督教世界』1424、12月25日〔『全集』③収録〕

### 1911(明治44)年

現代小説雑話〔講話概要筆記於本郷教会東京婦人会〕『新女界』3-2、2月1日

木山君を弔ひて『内外教育評論』5-10、10月1日

予は仏陀より基督に往けり『新人』12-11、11月1日〔『光を慕ひて』、『文化運動』107<鼎浦追悼号>(1919年10月1日)、『全集』②収録〕

〔何人か首相の適任者なる?〕『新日本』1-9、11月1日

前文相の遺したる二大害毒に就て『内外教育評論』5-12、12月1日

### 1912(明治45・大正元)年

統一時代の曙光『六合雑誌』372、1月1日

イエスの人格の宣伝〔基督教の最も主張すべき二大問題(教界諸名士の開書応答)〕『新人』13-2、2月1日〔『全集』②収録〕

支那革命と宗教改革〔社説〕『六合雑誌』374、3月1日

予をして強弁せしめよ〔『評論』〕『基督教世界』1489、3月28日〔『全集』②収録〕

予が著述の精神を明らかにす(海老名先生の御批評に答へて)〔雑俎〕『新人』13-4、4月1日〔『久遠の基督教』について〕と改題、『思想と生涯』収録〕

目を閉ぢよ『六合雑誌』375、4月1日〔『光を慕ひて』、『全集』②収録〕

永遠の都を憶ふ〔『想苑』〕『基督教世界』1491、4月11日〔『全集』③収録〕

死の一線を越えたる生の宗教『新人』13-5、5月1日〔『光を慕ひて』、『全集』②収録〕

本来の我と生命の神『基督教世界』1500、6月13日〔『本来の我』と改題、『光を慕ひて』、『全集』②収録〕

夏の宗教〔『想苑』〕『基督教世界』1502、6月27日〔『全集』③収録〕

眼を開け『六合雑誌』378、7月1日〔『光を慕ひて』、『全集』②収録〕

万有と歴史と神〔『想苑』〕『基督教世界』1503、7月4日〔『万有と神』と改題、『光を慕ひて』、『全集』②収録〕

自然の神〔基督教同志会と統一基督教弘道会との連合主催による第1回基督教夏期学校講演筆記〕7月21日〔『全集』②収録〕

静坐に関する感想『六合雑誌』379、8月1日

茄子籠『新女界』4-8、8月1日【里の子】

信仰統一の根本義『東洋時論』3-9、9月1日

先づ自己に徹底せしめよ〔如何にして基督教を社会に徹底せしむ可きか〕『新人』13-10、10月1日

乃木魂(挽歌の中より)〔『文苑』〕『基督教世界』1516、10月3日〔『全集』③収録〕

木山学士を憶ふ『内外教育評論』6-11、11月1日

文明批評家としての基督『六合雑誌』383、12月1日

### 1913(大正2)年

耶蘇の人格に触れよ『開拓者』8-1、1月1日[「耶蘇の人格と生命の創造」と改題、『光を慕ひて』、『全集』②収録]

大正維新とは何ぞや[「時論」]『基督教世界』1530、1月16日

国民品性論[4月15日講話(於統一基督教弘道会主催第15回通俗講話会)]『友愛新報』7、8、5月3日、6月3日

国民教化の一大機会[「時論」]『基督教世界』1546、5月8日

現代の悩みと耶蘇の救ひ[「想苑」]『基督教世界』1550、6月5日[『全集』③収録]

一転せんとする宗教政策[「時論」]『基督教世界』1551、6月12日

国体観念と自由思想『国家及国家学』1-6、7月1日

清福なる人生を享樂し得ることを[「予は予の娘(又は孫娘)に如何なる女ならんことを希望するか」]『中央公論』28-8、7月15日[「娘の教育に就いて」と題して『全集』③収録]

モンロー主義の新宣言と日本民族の将来『日本及日本人』612、8月15日

日本の国是と世界の大勢『国家及国家学』1-8、9月1日[『全集』①収録]

六甲山麓より『基督教世界』1566、9月25日[『全集』③収録]

国民的運動としての朝鮮伝道[社説]『基督教世界』1567、10月2日【無署名】

無花果樹の蔭[「静思」]『基督教世界』1567、10月2日【無署名】[『全集』③収録]

嬰兒の如くに[「静思」]『基督教世界』1568、10月9日【無署名】[[『全集』③収録]

樂園の発見[「静思」]『基督教世界』1569、10月16日【無署名】[[『全集』③収録]

視よ是れ其人也[「静思」]『基督教世界』1570、10月23日【鼎】[『全集』③収録]

生命の樹の実[「静思」]『基督教世界』1571、10月30日【鼎】[『全集』③収録]

『東西思想の統一』を読む『基督教世界』1574、11月20日[『全集』③収録][「ジョーセフ・コーサンド(加藤直士訳)『東西思想の統一』(警醒社書店、1913年)]

精神生活[「静思」]『基督教世界』1574、11月20日【T】[『全集』③収録]

二楽荘に遊びて[「雑報」]『基督教世界』1577、12月11日[『全集』③収録]

聖誕祭の感 基督中心の文明運動を想ふ[「聖誕祭の感想」]『基督教世界』1587、12月18日[『全集』③収録]

[「同情と激励」中の書信]『第三帝国』1、10月10日

### 1914(大正3)年

[「故加藤夫人綱子葬儀」中の「加藤綱子略歴」]『基督教世界』1580、1月1日

東西思想の統一 ジョゼフ・コーサンド著 加藤直士訳[「新著解説及批評」]『神学評論』1-1、1月1日]

近世女性の典型[関西秋季修養会講演]『女子青年界』10-1、2、1月1日、2月1日

書齋の中より[「時評」]『基督教世界』1583、1月22日

書齋の中より(再び)[「時評」]『基督教世界』1584、1月29日

火を投げ入れん為め[社説]『基督教世界』1585、2月5日【無署名】[『全集』③、基督教教育同盟会編『キリスト教文学読本』4(内外文化社、1949年4月25日)収録]

基督教の未来派[「想苑」]『基督教世界』1589、3月5日[『全集』③収録]

高山の上なる基督[「静思」]『基督教世界』1592、3月26日[『全集』③収録]

眼を開け[「巻頭言」]『新女界』6-4、4月1日

新日本の預言者[「論説」]『大阪講壇』160、4月1日

時勢の変を眺めつゝ[「時事感想」]『基督教世界』1595、4月16日[『全集』①、『政治論集』収録]

民衆主義と基督教[「論説」]『基督教世界』1589、5月7日[『全集』③収録]

異教思想と基督教精神との衝突問題[「神学欄」]『神学評論』1-2、5月7日[『全集』③収録]

青き山々に向ひて『基督教世界』1599、5月14日[『全集』③収録]

『基督教の根本問題』を読む[「新著月旦」]『新人』15-6、6月1日

[「巻頭言」]『新女界』6-6、6月1日

基督教思想の中心問題[「論説」]『基督教世界』1603、6月11日[『全集』③収録]

書齋の一隅より『基督教世界』1601、5月28日

書齋の一隅より『基督教世界』1602、6月4日

書齋の一隅より『基督教世界』1603、6月11日

書齋の一隅より『基督教世界』1604、6月18日

書齋の一隅より『基督教世界』1606、7月2日

新人の使命を想ふ[「論説」]『基督教世界』1607、7月9日

青山緑水の宗教『基督教世界』1608、7月16日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1609、1611~1614、1616、7月23日、8月6、13、20、27日、9月10日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1609、7月23日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1611、8月6日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1612、8月13日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1613、8月20日[『全集』③収録]

何故の日独戦争ぞ 日本帝国の道徳的使命[「論説」]『基督教世界』1614、8月27日

鎌倉山の麓より『基督教世界』1614、8月27日[『全集』③収録]

鎌倉山の麓より『基督教世界』1616、9月10日[『全集』③収録]

平和運動に於ける無冠の女皇フオン・ストネル男爵夫人を想ひて『基督教世界』1618、9月24日  
説教文学の断片[「感想」]『大阪講壇』166、10月1日  
基督教と国民性『早稲田文学』107、10月1日  
現在の問題と未来の問題[「論説」]『基督教世界』1621、10月15日  
新文明と基督教[「論説」]『基督教世界』1623、10月29日[『全集』③収録]  
信仰生活に於ける基督の地位[「講演」]『大阪講壇』167、11月1日  
生死の岸辺に立ちて[「想苑」]『大阪講壇』168、12月1日  
菊野の日記帳より[「小山東助氏夫人菊野女史を悼む」]『新女界』6-12、12月1日[『全集』③収録]  
自由主義者の見たる新文明の曙光[「論説」]『基督教世界』1628、12月3日[『全集』③収録]  
超戦争観『基督教世界』1629、12月10日[『全集』③収録]  
書齋に黙座して『基督教世界』1629、12月10日[『全集』③収録]  
静黙時代の耶蘇[「基督耶蘇の御生涯」]『基督教世界』1630、12月19日[『全集』③収録]  
沈黙の扉より 亡妻菊野の五十日祭に当りて『基督教世界』1630、12月19日[『全集』③収録]

#### 1915(大正 4)年

社会革新の眼目[「社会問題と基督教」]『基督教世界』1631、1月1日[『全集』③収録]  
芸術に現はれたる基督[「実験 信仰生活に於ける活ける基督」]『大阪講壇』169、1月1日  
家庭礼拝に就て[「家庭」]『大阪講壇』169、1月1日【汀鷗漁史】  
最高文明国としての新日本[「論説」]『基督教世界』1633、1月14日  
子供的美と偉大『基督教世界』1634、1月21日[『全集』③収録]  
聖と俗とを一貫して栄光を輝かしめよ[「論説」]『基督教世界』1635、1月28日  
姉妹よ眼を開け[「家庭」]『基督教世界』1635、1月28日[『全集』③収録]  
第九講 近代文芸と基督教[付録]『新人』16-2、2月1日[『全集』③収録]  
近代文芸の趨勢と基督教『開拓者』10-2、2月1日  
妻の遺言[「婦人付録」]『読売新聞』2月4日  
第一回立候補宣言書、2月[『全集』①、『政治論集』収録]  
根本志望の一端を[「初めて議政壇上に立つに方つて(議員として予の最も力を効さんとする点を明かにす)』]『中央公論』30-5、5月1日[『思想と生涯』、『政治論集』収録]  
六甲山麓より都大路へ『六合雑誌』383、5月1日[『全集』③、『政治論集』収録]  
戦後の日本に対する基督教の使命『開拓者』10-6、6月1日[『全集』③収録]  
夢[詩]『六合雑誌』413、6月1日[『全集』③収録]  
政党政治の将来『中央公論』30-7、7月1日[『政治論集』収録]  
[「芸娼妓問題と七十七名家の意見」]『廓清』5-9・10、10月1日

御大礼印象記『報知新聞』11月12、13日

薄倅の秀才島地雷夢『六合雑誌』419、12月1日[『全集』③収録]

歌集夕ばえの著者へ『新女界』7-12、12月1日[『全集』③収録]

## 1916(大正5)年

宣言『東京毎日新聞』1月1日[東京毎日新聞社長頼母木桂吉、編集長川島友三との連名による社告]

新春議会の重大問題[社説]『東京毎日新聞』1月5日【無署名】

対支外交の精神[社説]『東京毎日新聞』1月27日【無署名】

法王特使を迎へて[社説]『東京毎日新聞』2月2日【無署名】

比律賓問題[社説]『東京毎日新聞』2月6日【無署名】

政友会を憐れむ[社説]『東京毎日新聞』2月8日【無署名】

泰西文明の運命[社説]『東京毎日新聞』2月13日【無署名】

簡易保険賛成論[社説]『東京毎日新聞』2月18日【無署名】

外交上の感情論[社説]『東京毎日新聞』2月26日【無署名】

移民政策の確立[社説]『東京毎日新聞』2月27日【無署名】

欧州戦局の将来[社説]『東京毎日新聞』2月28日【無署名】

議會改善の一端[社説]『東京毎日新聞』3月4日【無署名】

華族制度改革論[社説]『東京毎日新聞』3月6日【無署名】

国策研究の必要[社説]『東京毎日新聞』3月15日【無署名】

学制改革と俗論[社説]『東京毎日新聞』3月16日【無署名】

政党自彊の道[社説]『東京毎日新聞』3月19日【無署名】

平和主義を宣伝す『新日本』6-4、4月1日[『全集』①、『政治論集』収録]

眼頭の教育悲劇[社説]『東京毎日新聞』4月2日【無署名】

日米問題の曲折[社説]『東京毎日新聞』4月5日【無署名】

大志を懐抱せしめよ[社説]『東京毎日新聞』4月6日【無署名】

亜細亜主義を排斥す[社説]『東京毎日新聞』4月7日【無署名】

選挙権拡張論[社説]『東京毎日新聞』4月13日【無署名】

大学と宗教講座[社説]『東京毎日新聞』4月21日【無署名】

沙翁三百年祭と国民的自覚[社説]『東京毎日新聞』4月22日【無署名】

新文芸委員会の創設を促す[社説]『東京毎日新聞』5月4日【無署名】

興国根本策[社説]『東京毎日新聞』5月12日【無署名】

南洋発展の前途[社説]『東京毎日新聞』5月15日【無署名】



群衆の無節制と教育家の責任[社説]『東京毎日新聞』5月17日【無署名】  
調査資料を公開せよ[社説]『東京毎日新聞』5月17日【無署名】  
工場法の根本義[社説]『東京毎日新聞』5月20日【無署名】  
労働問題の一面[社説]『東京毎日新聞』5月21日【無署名】  
欧州戦局の予想[社説]『東京毎日新聞』5月28日【無署名】  
教育振興機関[社説]『東京毎日新聞』5月29日【無署名】  
枢密院問題[社説]『東京毎日新聞』5月31日【無署名】  
支那統一の責任[社説]『東京毎日新聞』6月9日【無署名】  
支那統一の責任(再び)[社説]『東京毎日新聞』6月10日【無署名】  
善隣扶導の方針[社説]『東京毎日新聞』6月11日【無署名】  
国防と政党[社説]『東京毎日新聞』6月17日【無署名】  
選挙権拡張[社説]『東京毎日新聞』6月25日【無署名】  
言論尊重の方法[社説]『東京毎日新聞』6月26日【無署名】  
国策の眼目[社説]『東京毎日新聞』6月29日【無署名】  
同志会の試金石 [社説]『東京毎日新聞』7月1日【無署名】  
憲政教育の方法[社説]『東京毎日新聞』7月5日【無署名】  
経済大学独立案[社説]『東京毎日新聞』7月12日【無署名】  
栄光の冠と公人の範[社説]『東京毎日新聞』7月16日【無署名】  
日露親和の三大方面[社説]『東京毎日新聞』7月21日【無署名】  
日米関係の将来[社説]『東京毎日新聞』7月23日【無署名】  
時代と女子教育[社説]『東京毎日新聞』7月24日【無署名】  
[「御大礼印象記」]『御即位礼画報』12、7月25日  
日支外交の新生面[社説]『東京毎日新聞』7月26日【無署名】  
超然内閣説は蜃気楼のみ[社説]『東京毎日新聞』7月30日【無署名】  
時代錯誤の夢想[社説]『東京毎日新聞』7月31日【無署名】  
憲政の論理[社説]『東京毎日新聞』8月6日【無署名】  
商権確立策[社説]『東京毎日新聞』8月13日【無署名】  
学校増設計画(再論)[社説]『東京毎日新聞』8月16日【無署名】  
日支親善根本策[社説]『東京毎日新聞』8月20日【無署名】  
[「芸娼妓問題と七十七名家の意見」]『廓清』5・9・10、9月1日  
実業家と新政党[社説]『東京毎日新聞』9月2日【無署名】  
新政党促進論[社説]『東京毎日新聞』9月3日【無署名】

労働の新問題[社説]『東京毎日新聞』9月4日【無署名】  
殖民地行政統一[社説]『東京毎日新聞』9月13日【無署名】  
憲政と第三党[社説]『東京毎日新聞』9月19日【無署名】  
政策一新の機[社説]『東京毎日新聞』9月24日【無署名】  
独立自給政策[社説]『東京毎日新聞』10月2日【無署名】  
挙国一致の憲政同盟[社説]『東京毎日新聞』10月7日【無署名】  
憲政運用の論理[社説]『東京毎日新聞』10月9日【無署名】  
憲政会の名実[社説]『東京毎日新聞』10月12日【無署名】  
日本国民の弾力[社説]『東京毎日新聞』10月20日【無署名】  
国事担当の精神[社説]『東京毎日新聞』10月23日【無署名】  
憲政の裏切者[社説]『東京毎日新聞』10月25日【無署名】  
寺内内閣の政綱[社説]『東京毎日新聞』10月31日【無署名】  
三党首の無責任[社説]『東京毎日新聞』11月2日【無署名】  
政治的偶像破壊[社説]『東京毎日新聞』11月4日【無署名】  
仏基両教の活動[社説]『東京毎日新聞』11月5日【無署名】  
三党首の無責任(再論)[社説]『東京毎日新聞』11月6日【無署名】  
米国の政戦[社説]『東京毎日新聞』11月8日【無署名】  
米国新大統領と日米協商論[社説]『東京毎日新聞』11月10日【無署名】  
日米政戦の対照[社説]『東京毎日新聞』11月13日【無署名】  
国民外交の前提[社説]『東京毎日新聞』11月14日【無署名】  
社会政策案[社説]『東京毎日新聞』11月21日【無署名】  
政党連合論[社説]『東京毎日新聞』11月22日【無署名】  
所謂対支新政策[社説]『東京毎日新聞』11月26日【無署名】  
官僚政治の末路[社説]『東京毎日新聞』11月29日【無署名】  
真実を慕ふ心[「論文」]『大阪講壇』17-12、12月1日  
大波瀾乎小波瀾乎[「台風か暴風か第三十八議会の予想」]『新日本』6-12、12月1日  
官紀を振肅せよ[社説]『東京毎日新聞』12月5日【無署名】

## 1917(大正 6)年

所謂自由恋愛を論じて現代の欠陥に及ぶ『新日本』7-1、1月1日  
世界的日本の国是を論じて所謂東洋モンロー主義者の謬見を排す『大学評論』1-1、1月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①収録]  
新文明の曙光に就て[「評論」]『六合雑誌』432、1月1日

討閣議会議解散の日ー下院の一隅よりー『東京毎日新聞』1月26日

軍国主義の将来[「戦後研究」]『横浜貿易新報』1月29～31日

政党政治の強所及弱点『大学評論』1-2、2月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①、『政治論集』収録]

君民同治、尊王と民本[「尊王排閥論」]『第三帝国』81、2月1日[『全集』①収録]

立候補宣言書『六合雑誌』434、3月1日[「第二回立候補宣言書」と題して『全集』①収録、『政治論集』抄録]

民衆政治の五大難関『大学評論』1-4、4月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①、『政治論集』収録]

総選挙の結果と政局の将来『大学評論』1-5、5月1日

太平洋時代の出現『大学評論』1-6、6月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①収録]

特別議会の諸問題 議長問題ー不信任案問題ー追加予算問題ー其他の諸問題[「第三十九議会に関係ある政界諸問題の研究」]『大学評論』1-6、6月1日

臨時議会を前にして『中央公論』32-6、6月1日[『思想と生涯』『政治論集』収録]

寺内首相の言論取締訓示に就て『第三帝国』85、6月10日

選挙権拡張の機運『第三帝国』85、6月10日

戦争目的の民衆主義化『新小説』22-8、7月1日

帝国外交の危機『新日本』7-7、7月1日

婦人問題の一片[「大戦後に於ける婦人問題」]『新女界』9-7、7月1日[『思想と生涯』収録]

所謂国策の中樞問題『大学評論』1-7、7月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①収録]

選挙権拡張の標準及び範囲に就て『法治国』32、7月10日

模範小学校を参観して『家庭及学校』1-3、8月1日

時代精神に対する反抗と順応『大学評論』1-8、8月1日【玉芙蓉閣主人】

帝国議会の光暗両面『大学評論』1-8、8月1日【玉芙蓉閣主人】

所謂国策の中樞問題(再論)『大学評論』1-8、8月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①収録]

江木博士の『理想の憲政』を讀みて所感を陳ぶ『第三帝国』87、8月10日

再び高原に来て(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月16日

樞の大樹の蔭にて(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月17日

梅雨如き一日(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月18日

男爵を囲める一団(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月19日

大樹の蔭に会す(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月20日

講堂より山莊へ(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月21日

布引観音に詣で(軽井沢日記の中より)『東京毎日新聞』8月23日

國際的孤立か世界的協調か『大学評論』1-9、9月1日【玉芙蓉閣主人】

[「代議士の代議士評」]『新時代』1-1、10月1日

早稲田騒動と民本主義『大学評論』1-10、10月1日【玉芙蓉閣主人】  
靈性最深の叫び[9月16日講演於自由基督教会]『六合雑誌』441、10月1日  
禁鉄=友愛会=戦後=覚悟[9月5日鉄工大会演説大要於友愛会本部]『労働及産業』74、10月1日  
欧州文明の危機『基督教世界』1774、10月4日[『全集』③収録]  
暴風雨を前にして[卷頭論文]『第三帝国』89、10月10日[『全集』③、『全集』から『本郷教会創立五十年』(日本組合本郷基督教会編・刊、1936年)収録]  
民本主義の道徳的基礎『第三帝国』89、10月10日[『全集』①、『政治論集』収録]  
所謂東洋モンロー主義『大学評論』1-11、11月1日【玉芙蓉閣主人】  
[「犬養木堂尾崎学堂の長所と短所」]『中外新論』1-2、11月1日  
神人黙契『六合雑誌』442、11月1日  
貴族院改革論[卷頭論文]『第三帝国』90、11月10日  
世界に貢献する志『第三帝国』90、11月10日[『全集』①収録]  
所謂国策の実質に就て『新時代』1-3、12月1日  
欧州出兵は是非乎『新日本』7-13、12月1日  
選挙法及び貴族院令の改正[卷頭論文]『大学評論』1-12、12月1日【玉芙蓉閣主人】  
最近政界の重大問題『大学評論』1-12、12月1日【玉芙蓉閣主人】  
誤れる指導方針[「地方青年団問題」]『雄弁』8-14、12月1日  
最高思想の生活『基督教世界』1785、12月20日[『全集』③収録]

## 1918 (大正7) 年

祖国の為め神の都の為め『新人』19-1、1月1日  
民本的尊王論『第三帝国』91、1月1日  
[「芳情録」中の書信]『第三帝国』91、1月1日  
日本国民の三大理想『大学評論』2-1、1月1日【玉芙蓉閣主人】[『全集』①収録]  
今期議会当面の問題『大学評論』2-1、1月1日【玉芙蓉閣主人】  
政治学界の双璧[「政治学者としての吉野博士と大山氏」]『大学評論』2-1、1月1日[『思想と生涯』収録]  
[「予の廿歳頃 理想は? 境遇は? 記憶は?」]『中学世界』21-1、1月1日  
希望の春を迎へて『横浜貿易新報』1月1日【無署名】  
国民的理想論『横浜貿易新報』1月2~13日【無署名】[『全集』①収録]  
欧州大戦の哲学的背景[1917年12月22日樗牛辰辰記念講演会講演於青年会館]『人文』3-2、2月1日[『思想と生涯』収録]  
講和問題と日本の地位[『大学評論』2-2、2月1日【玉芙蓉閣主人】]  
政府の公約履行を望む『中外』2-2、2月1日

〔「噫高井直貞君」〕『開拓者』13-3、3月1日

社会問題と第四十議会概観『実生活』18、3月1日

日本の媾和条件を再論す『大学評論』2-3、3月1日【玉芙蓉閣主人】

現代政治の根本問題『中外新論』2-3、3月1日

西伯利亞出兵の目的及時機『新日本』8-4、4月1日

西伯利亞出兵と日支新協約『大学評論』2-4、4月1日【玉芙蓉閣主人】

今議会決議事項の国民生活に及ぼす影響『中外新論』2-4、4月1日

軍国主義と民本主義『大学評論』2-5、5月1日【玉芙蓉閣主人】〔太田雅夫編『資料大正デモクラシー論  
争史 下巻』(新泉社、1971年)収録〕

本多愛雄君を悼みて『新人』19-6、6月1日

\*露西亜革命の前途と日本の大使命大理想『第三帝国』[97(7月10日)か、98(8月10日)に掲載か?]

## 1919 (大正 8) 年

伝道力の衰弱〔「新時局に対する基督教の使命」〕『新人』20-1、1月1日

天才比翼塚之詩 弔松井須磨子〔「劇壇の天才松井須磨子の死を論ず」〕『青年雄弁』4-2、2月1日

〔「労働組合公認可否」〕『労働及産業』91、3月1日

鼎浦遺吟『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

審判の日〔詩〕『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

父が名〔詩〕『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

詩国の先駆者〔詩〕『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

光の言葉〔詩〕『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

牡獅子の賦〔絶筆〕『六合雑誌』464、10月1日〔『全集』③収録〕

## 4. 帝国議会演説

### 第 39 回帝国議会

言論圧迫に関する質問『官報号外 第三十九回帝国議会衆議院議事速記録 第六号』1917年7月4日 [『全集』①、『政治論集』収録]

市町村立小学校費国庫補助法案に関する発言『官報号外 第三十九回帝国議会衆議院議事速記録 第十二号』1917年7月15日

貿易商事会社高田商会をめぐる石炭販売権不正契約、高等警察費用、図書検閲費用、宮城県河川事業予算、満州朝鮮における殖民政策について質問『第三十九回帝国議会衆議院予算委員第二分科(内務省所管)会議録(速記録) 第一回 大正六年七月二日』

朝鮮の統治について質問『第三十九回帝国議会衆議院予算委員第二分科(内務省所管)会議録(速記) 第二回 大正六年七月三日』 [『思想と生涯』収録]

南洋開発会社への船舶貸与事件について質問『第三十九回帝国議会衆議院予算委員第二分科(内務省所管)会議録(速記) 第三回 大正六年七月五日』

市町村立小学校費国庫補助法案について発言『第三十九回帝国議会衆議院市町村教育費国庫補助に関する建議案外二件委員会議録(速記) 第三回 大正六年七月九日』

仙台市水道工事助成に関する件で発言『第三十九回帝国議会衆議院請願委員会議録(速記) 第五回 大正六年七月十一日』

### 第 40 回帝国議会

国民精神の指導、一般行政、財政経済、外交方針について質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員会議録(速記) 第六回 大正七年一月二十九日』 [『思想と生涯』収録]

農商務大臣の答弁の不礼なる態度と自己の名譽毀損に関わる質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員会議録(速記) 第八回 大正七年一月三十一日』

海軍軍事予算について質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員第四分科(陸軍省及海軍省所管)会議録(速記) 第一回 大正七年二月一日』

海軍軍事予算について質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員第四分科(陸軍省及海軍省所管)会議録(速記) 第二回 大正七年二月二日』

陸軍軍事予算について質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員第四分科(陸軍省及海軍省所管)会議録(速記) 第三回 大正七年二月四日』

媾和問題について質問『第四十回帝国議会衆議院予算委員第一分科(外務省、司法省及文部省所管)会議録(速記) 第三回 大正七年二月四日』

### III 注記

「鼎浦小山東助氏年譜・著作総目録」（以下、「著作総目録」と略記）に関連して、本著作目録の採録範囲について、以下、総括的に記す。

① 「著作総目録」に記されている、下記著作 6 点は掲載を確認できない。

1897(明治 30)年	春寺落花曲『尚志会雑誌』
1904(明治 37)年	戦史中の一詩題『毎日新聞』
1907(明治 40)年	慕はしき日光山『東京毎日新聞』
1912(明治 45・大正元年)年	宗教の本質に関する一仮説『早稲田講演』
1916(大正 5)年	国策と党首『東京毎日新聞』
1917(大正 6)年	欧州出兵は是非非乎『新日本』

②「著作総目録」では、1916 年の『東京毎日新聞』社説（原則として無署名である）の 1 部しか採録していないし、引続き執筆しているはずの 1917 年の社説は全く採録していない。紙幅の関係で省略したり、収集できなかったケースもあると思われるが、採録基準がよく分からない。いつ頃まで鼎浦が社説を執筆していたかということも含めて今後の検討を要するが、本著作目録では、とりあえず、「著作総目録」に記載がある社説のみ採録した。

③「著作総目録」に記されている、下記の草稿・講演筆記・墓碑銘などは本著作目録では採録していない。

#### 1893・94(明治 26・27)年頃

短夢[「京なる姉に」]「安波山」二編  
鶏鳴[小説体]

#### 1895-89(明治 28-31)年

『落英一掃』所収の長詩・訳詩・序文

#### 1902(明治-35)年

張横渠の哲学[東京帝国大学における東洋哲学史  
論文]

#### 1907(明治 40)年

青年志望論[演説筆記]  
信の悦[演説筆記]

#### 1910(明治 43)年

全人の頌[遺稿、『全集』②収録]

#### 1912(明治 45・大正元年)年

田中王堂君のトルストイが絶対主義を論ずる一  
文を読みて所感あり[未発表原稿]

#### 1913(大正 2)年

第二維新論[未発表原稿]  
国是と政党[未発表原稿]  
河野・箕浦・島田・武富四氏脱党宣言書告知書[『全  
集』①収録]

#### 1914(大正 3)年

基督教優勝論[演説草稿]  
母としての新修養論[演説草稿]  
万有神論と人格神論[演説草稿]  
新文明の曙光[演説草稿]  
信仰生活に於ける基督の地位[演説草稿]

#### 1915(大正 4)年

官林松下に関する陳情書

#### 1916(大正 5)年

討閥同盟宣言書  
興国の三大要素[演説筆記]

#### 1917(大正 6)年

多賀城村表忠碑文  
千葉虎二碑銘  
佐藤健蔵碑銘